1000年先の未来へ。
美しい里、豊かな海
satoumi project
Seto Inland Sea, Kagawa

かがわ里海大学2021 スタートアップ講座

ウミホタル観察講座（観音寺市会場）

開催しました！

●日時 令和3年7月18日（日）18:30～20:30　　●会場 箕浦漁港・箕浦自治会館
●講師 香川県立三木高等学校校長 塩田 浩之氏
●講師アシスタント　山田 富士夫氏（ウミホタル観察会を開くための講座修了生）
　　　　　　　　　　田中 真利子氏（ウミホタル観察会を開くための講座修了生）

7月18日日曜日、箕浦漁港及び箕浦自治会館にて、かがわ里海大学2021スタートアップ講座「ウミホタル観察講座」を、講師に香川県立三木高等学校の塩田浩之氏を迎えて開催し、18名が講座に参加しました。

この講座は、水質の良いところに棲んでいるウミホタルを、ペットボトル容器で作成した採集器を使用して採集し、美しく光る様子やウミホタルの動きを観察することを目的に開催しました。

まず最初に講師より「ホタル」と名前のつく生物について話がありました。よく知られる昆虫のホタルとは異なり、ウミホタルはミジンコに近い生物で、自身が光るのではなく、ウミホタルが吐き出す物質が海水中の酸素と反応して青白く発光すると解説がありました。

その後、海岸へ移動し、ペットボトル採集器の仕上げを行いました。ウミホタルは肉食であると説明があり、今回は餌として鯛ちくわを採集器の中に入れました。また採集器に砂利や海水を入れて、海面ではなく海底に沈ませることで、よりウミホタルを多く捕獲することができると解説がありました。採集器に取り付ける紐も長めのもの使用して、投げ入れる際もなるべく遠くに飛ばすようにというコツについても説明がありました。

採集器を仕掛けている間には、講師から星や風などの自然科学について話がありました。

しばらくして採集器を引き揚げました。引き揚げる際についてもコツがあり、堤防の壁面に当たらないよう、振動を抑えながらサッと引き揚げるというポイントも説明がありました。

採集器を引き揚げると、数は少ないものの小さなウミホタルが採集器の中で泳いでいる様子が観察できました。採集器の中の海水をバットに移して揺らすと、青白い光を観察することができました。

今回の観察では、あまり多くのウミホタルを観察することはできませんでしたが、事前の調査では今回の観察場所でも非常に多くのウミホタルが観察できたようです。

数が少なかった理由はいろいろ考えられ、「水温が低い」「雨で湾内の塩分濃度が下がり沖に逃げてしまった」「何らかの理由で一時的に水質が汚れている可能性がある」といった変化により、採集できるウミホタルの量も変わってくると説明がありました。観察する時期や場所を変えて、受講者自身でもウミホタルの観察を実施してみてほしいと講師より解説がありました。